

◦ 市民へ多様な学習機会の提供 … 学んでほしい場／学びたい場

◦ 市民のライフステージに対応した学習機会の提供

【運営委員からのご意見】

【次年度講座(案)】

【第1・2回会議の提案】

成人期

[基本講座]  
◆一般・新潟をテーマ  
・運営委員より提案／大学連携 ・連続講座 前期8～10回、後期5～10回  
[特別講座]  
◆一般・新潟をテーマ  
・事務局提案 ・回数 1～3回  
[市民企画講座(運営参画)]  
→**会場での対面受講を基本とし、一部の講座でオンライン配信を行う。**  
・講座の内容によって、講座開催時期や回数を決定する。  
**(8～10回講座を4講座(うちコンソーシアム連携講座含む)、5程度程度の講座を2講座行う)**  
・世代などのターゲットを意識した講座を実施する。かつ、多様な層が受講できるようにする。

若者期

・特別講座で行う予定なのか。

特別講座として行う。令和4年度に、大学生等による企画講座の仕組みを検討する。

[特別講座 sono1]  
◆一般・新潟をテーマ  
・事務局提案 ・回数 1～3回  
[特別講座 sono2]  
・大学連携 ・回数 1～3回  
[市民企画講座(運営参画)]  
→**大学生等による企画講座の仕組みを検討する。**

小・中学生期

・何のために講座を設けるのかが分からず、違和感がある。民間や大学でも親子向けの講座をやっているので、あえて同じようなことをやる必要はないと思う。  
・高度な学びを親子向けに咀嚼しなおすのは今の運営体制では難しく、行ったところで、他の場と競合し勝てないのではないかと。小中学校の先生を対象とした講座が作れるといいのではないかと。  
・領域によっては、親子向けが可能なものもあるのではないかと。一部の親にニーズはあると思う。  
～親子向け講座を行う場合～  
・講義を聴くのではなく、実際に機器等を使って親子で参加する取り組みは面白いのではないかと。  
・夏休みに親子で自由研究の講座に参加してもらい、成果を宿題として提出してみようかと。  
・1テーマで3回やるより、2テーマで1回ずつやる方が手ごたえが分かっていいのではないかと。身体を動かしたり、作ったりするものというように、違うテーマをするといいのではないかと。  
・小学生は、その世界観を楽しむというような、「楽しい」という世界の入り口を見せてあげられたら十分ではないかと。  
・親子向け講座の応募は少なく、小学生が話を聞ける時間は短いので、講座実施の際は練らないといけないと思う。

～親子向け講座を行う理由～  
・受講者層を広げる。  
・市民大学との接点を子どもにも持つてほしい。  
※市民大学の役割としては、新潟を学ぶ場の提供や学校以外の学びの場の提供ができる。

→試行的に、親子向け講座を行いながら今後の講座実施について検討する。

[特別講座(体験型含む)]  
◆新潟をテーマ  
・事務局提案  
・回数 1～3回  
・親子参加有り  
→**親子で学ぶ、市民大学らしい、学びを深める講座を実施する。公民館事業との差別化。**